

絲綢之路

シルクロード

S I L K R O A D

2021-新春

No.95

●表紙の画および題字は、
故・平山郁夫画伯のご厚意により
ご提供いただいているものです。



神殿爽春 下鴨神社 京都 2008年



【葡萄唐草模様について】

古代、ペルシャ、コーカサス生まれの葡萄が蔓草と一つになり、西へ、東へ、シルクロードを経て東西の文化を彩る文様となりました。私どもの財団ではシルクロードを中心に、世界の文化に寄与できればと、この葡萄唐草文様をシンボルマークにいたしました。

●シンボルマークデザイン：吉田左源二

公益財団法人

文化財保護・芸術研究助成財団

FOUNDATION FOR CULTURAL HERITAGE AND ART RESEARCH

コルドバ歴史地区

(スペイン)



ユネスコ世界遺産（文化遺産）シリーズ

©NFUJ

スペイン南部、アンダルシア地方中央部、グアダルキビール河岸に位置する都市。七五六年イスラム教徒の後ウマイヤ朝の首都となり、十三世紀中頃までイスラム世界の学問と芸術の一大中心地であった。七八五年頃創建された写真の「コルドバの大モスク」は、スペインの代表的なイスラム建築である。そのほか旧市街には、アルカーサル、ローマ時代の橋と保塁、考古博物館、パティオ（中庭）を備えた白壁の民家などがある。

（二九八四年に文化遺産として登録）

公益社団法人

日本ユネスコ協会連盟

年頭のご挨拶

コロナ禍の中の新年に寄せて

新年明けましておめでとうございます。昨年十一月一日に、宮廻正明前理事長の後任として理事長に就任いたしました澤和樹です。私の専門は音楽（ヴァイオリン）ですが、歴代の理事長を務められた平山郁夫先生、宮田亮平先生に続き、第十代東京藝術大学長という立場で、文化財保護および芸術振興に寄与する当財団の設立趣旨に則り誠心誠意、財団の運営に尽力する所存です。

さて、一昨年に中国で発生した新型コロナウイルス感染症のニュースを聞いて、オリンピック・パラリンピック東京大会の延期や、現在も続く地球規模の移動制限、経済の著しい停滞を予測できた方がいらっしやうたでしょうか。一月中旬に国内初の感染者が出たあとは瞬く間に拡がり、二月末には、政府によるイベント自粛要請、四月七日には「緊急事態宣言」が発令され、美術館や博物館、ギャラリーが閉鎖され、多くのコンサートやイベントが中止または延期となりました。芸術・文化に携わる者にとっては、発表の場、活動の場が失われ、試練の一年となりました。

東京藝術大学においても、卒業式、入学式も中止となり、授業は約一カ月遅れの五月十一日開始、しかもオンラインのみによる事となりました。しかしながら一般大学とは異なり、実技指導中心の藝大においては、やはりオンラインにばかり頼ってはならず、六月に入ってから、卒業制作のため大学内のアトリエや工房を使わざるを得ない卒業年度の学生や、音楽学部の実験演奏を目前に控

えた学生などを優先的に、企業の協力も得て、楽器や音楽演奏の際の飛沫を可視化して、演奏やレッスンの際の感染リスクを避けるためにどれくらいの距離が必要か、また、演奏者同士、あるいは教師と学生の間の透明アクリル板設置の有効性を検証するなど、感染防止対策を徹底しながら、徐々に対面による実技レッスンや制作指導を開始しました。

世界に目を向けると、日本やアジア圏に比較して感染者や死亡者が多いヨーロッパや北米各国では、より強制力の強い都市封鎖（ロックダウン）を行う国がほとんどで、やはり美術館・博物館の閉鎖、コンサートやオペラは軒並み中止となり、芸術家や音楽家は活躍の場を奪われました。しかしドイツでは、メルケル首相やグリュックタース文化大臣が国民に発出したメッセージの中で、「アーティストは必要不可欠であるだけでなく、生命維持に必要」とさえ述べ、フリーランスの芸術家や、文化芸術施設への援助、文化芸術にかかわる事業者への保障など、総額六〇〇億ユーロ（日本円で約七兆五〇〇億円）もの支援をいち早く打ち出しました。音楽や芸術による産業が、国家財政の極めて大きな部分を占めることもあり、文化芸術への支援に対する政府や国民の理解が格別であるように感じられます。わが国でもフリーランスのアーティストを含む個人事業主を対象とした持続化給付金や、文化庁を中心に、文化芸術活動への緊急総合支援ということで、五〇〇億円規模の支



理事長
澤和樹
(さわ・かず)

援が打ち出されましたが、これらはすでに芸術家としてキャリアを確立している人々たちへの支援であり、学生や、これから実績を作ろうとしている若手芸術家にとっては、実績を構築する場そのものが奪われてしまいました。

そこで、東京藝大では、六月に「若手芸術家支援基金」を新たに立ち上げ、大学の自己資金に加え、クラウドファンディングによる募金を行いました。二カ月足らずで九〇〇名を超える方々から総額三七〇〇万円余りの寄付金が集まりました。これらをもとに、困窮している学生や卒業生の「今の苦しい状況を救う」とともに、コロナ禍の中の、「新しい芸術表現」を支援して参ります。

コロナの時代を何とか乗り切った後には、やはり、対面による人間同士のやりとりが戻ってくることを願っています。人類の歴史を紐解くと、疫病のパンデミックの後には、必ず文化が開花しているといわれています。聖武天皇が、天然痘の大流行や、自然災害の終息を祈願して奈良の盧舎那仏像を建立され、天平文化が生まれ、ヨーロッパ中世のペストの大流行の後には、ルネサンスが開花したように、文化芸術が開花するまで、その根を絶やさないよう、今こそ芸術支援は最も重要であると考えております。

本年も皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。

新型コロナウイルス禍での文化財保護の現状

新型コロナウイルスは、全人類の健康を蝕み、経済活動をはじめとする人々の日常生活に大打撃を与えた。文化・芸術面も例外ではない。その実態を文化行政の第一人者が語る。

はじめに

令和二年度は、これまで経験したことがないような執務の始まりであった。本来なら四月の役所は前年度の実績報告の処理と新年度の各種申請等で、事務処理の最も煩雑な時期であると共に、異動の挨拶等で人の出入りも最も多くなる時期である。

令和二年一月に、新型コロナウイルスの日本国内での感染が確認され、その後も首都圏を中心に感染者が急増し、四月七日に七都府県に対し、緊急事態宣言が発令された。これを受け文部科学省は、感染拡大の予防と執務の継続のため、職員を二班に分け一日おきの出勤と自宅でのテレワークという体制になった。来庁者も緊急の場合に限ることとしたため、役所の人口密度は半分程になった。

文化庁の現状

十一月現在も、可能な限りテレワークや時差出勤を行い、大勢が集う会議や打合せ等はWeb会議を主流として執務に当たっている。調査官による現地



東京国立博物館も新型コロナウイルスの流行に伴い大きな展覧会が中止に追いやられた



東京都美術館は注目を集めていた展覧会が会期中から中止となった。上野公園内の美術館、博物館はその後は多くの入館制限下で再開された

このように、新型コロナウイルスは文化庁の業務にも多大な影響を及ぼしている。

文化庁からの新型コロナウイルスに対する情報発信

政府による新型コロナウイルス感染症対策本部第一回会議が、令和二年一月三十日に開催されている。文化庁からは都道府県をはじめ文化関連団体等への新型コロナウイルスへの対応の依頼文書を二月三日に事務連絡として発出した。その後、文化財保護の観点から文化財関係者への事務連絡が四月二十三日に発出された。これは「文化財所有者及び文化財保存展示施設設置者におけるウイルス除去・消毒作業にかかる対応について」という表題で、文化財やその展示施設において感染拡大防止のための消毒作業に、文化財保護の観点からの注意喚起を促すものである。発端は消毒薬剤の文化財への影響を懸念された問い合わせである。文化財建造物や文化財が所在する場所で消毒作業が必要となり

文化庁文化財監査官
豊城 浩行
(とよぎ・ひろゆき)



助言が必要な場合は、文化庁各課や国立文化財機構の文化財活用センター、東京文化財研究所保存科学研究センターを相談窓口とするものの周知を図った。この通知からも明らかだが、新型コロナウイルスが文化財自体を腐食や変質させる等の影響を及ぼすことは現段階では想定されず、感染者から文化財やその周辺のものを通して他の人への感染を抑止する必要があり、その際に使用する薬剤等が文化財の劣化等を引き起こさないものを使用して下さいという主旨である。文化財自体にウイルスが付着しても一週間から十日程度放っておくと不活性化することである。

新型コロナウイルスが文化財保護に及ぼす影響

新型コロナウイルスの感染を減らすため、イベントの自粛、博物館、文化・観光施設への入場制限、文化財や社寺の拝観停止等も一時なされた。直接的に人を相手とするサービス業としての飲食、観光・宿泊業や旅客業等は大きな経済的損害を被っている。

このような状況の中、年度早々に文化財所有者と修理技術者達の新型コロナウイルスの影響による実情を知ることとなった。文化財所有者の財政状況が、拝観者・参拝者の激減、国内経済の停滞等により悪化し、予定していた保存修理事業経費における所有者負担分の捻出が難しくなったのである。これにより事業規模の縮小や一部中止も検討せざるを得なくなった。また、修理技術者にとって、技術の継承には安定的な修



コロナ禍以前の多くの人で賑わう春の飛騨高山祭り。重要無形民俗文化財「高山祭の屋台行事」は令和2年は春、秋とも中止になった



人気の無い新緑の京都・清水寺 (写真提供：鶴岡典慶氏)

理事業量が必要で、国庫補助による文化財の保存修理現場が計画的に継続する事が望ましい。事業の縮小等は技術の継承にも少なからず影響を及ぼすことになる。文化庁では、修理、防災、公開活用のための国庫補助事業の実施や、令和二年度着手が必要な事業について、コロナ禍での所有者の収入状況を勘案し、七月に国庫補助率の加算が可能となる予算措置を行った。

人が主体である無形文化財、民俗文化財への影響

芸能は観客に見られてこそ、それぞれの技が高められ、継承される分野である。興行の中止や縮小は、生活の糧を得られなくなることもあり、その継承に直接的大打撃となる。

文化庁では国指定も含む文化芸術活動団体等に対し、「感染対策を行いつつ、直面する課題を克服し、活動の再開、継続に向けた積極的取組等に必要な経費を支援し、文化芸術の振興を図る」ための支援事業を行っている(詳細は文化庁HPをご覧ください)。何分初めてのことであるうえに、対象とする方々が

非常に多く、それぞれの状況が多種多様であり、必要とする者に速やかに効果的に支援する事と膨大な書類の適正な処理に苦しんでいる。民俗文化財である祭礼や年中行事は人が集まらなければ始まらない。その多くは演じる者と観衆が一体となり、一年の節目を共有し地域の連帯感を確認するような意味も持つであろう。毎年または定期的に行う事が文化財の保存であり活用である。各地の祭り等が軒並み中止となり、文化財の中でも最もコロナの影響を被った分野ではなからうか。疫病退散を願う京都祇園祭も中止を余儀なくされた。令和二年秋に祇園信仰の総本社である京都市八坂神社本殿の国宝指定が文化審議会から答申された。この指定にあたり、当本殿が疫病退散を願う祇園祭を担う町衆の支援で維持されてきたことが、文化史的に特に意義が深く貴重であるということも評価された。文化を担ってきたのは人である。人の生命に危害を及ぼす新型コロナウイルスは、文化へも大打撃を与えている。文化の継承のため、新たな自然災害に立ち向かわなければならない。

筆者略歴

昭和36年7月生
昭和60年3月 横浜国立大学工学部建築学科卒業
昭和60年4月 (財)文化財建造物保存技術協会
平成4年12月 滋賀県教育委員会文化財保護課
平成15年9月 文化庁文化財部建造物課文化財調査官(修理指導)
平成21年4月 文化庁文化財部参事官付主任文化財調査官(整備活用)
平成24年4月 文化庁文化財部参事官付主任文化財調査官(修理指導)
平成27年8月 文化庁文化財部参事官付主任文化財調査官(修理企画)
平成29年4月 文化庁文化財部参事官(建造物担当)
平成30年4月 文化庁文化財部文化財鑑査官(併)参事官(建造物担当)
平成30年10月 文化庁文化財鑑査官

明治神宮鎮座百年

明治神宮ミュージアムの開館

明治神宮ミュージアム館長
黒田 泰三
(くろだ・たいぞう)

明治天皇を敬慕する国民総意のもとに
明治神宮が鎮座して百年。
今、大帝を偲ぶ新たなミュージアムが開館。

明治大帝を敬慕して一世紀



明治神宮ミュージアムの外観

明治神宮は、明治天皇、昭憲皇太后を御祭神として大正九年（一九二〇）に鎮座した。翌大正十年には、両御祭神ご愛用の御物を納めた「宝物殿」（現在重要

文化財として境内に保存）が造営され、御物の保存および展示活動を平成三十年（二〇一八）までおこなってきた（平成九年には別館の役割を有した「宝物展示室」を境内の施設文化館に設け、同三十年まで展示活動をおこなった。尚、文化館は現在「フォレストテラス明治神宮」と改称している）。

「杜の展示室」（一階）

この展示室では、鎮座百年を迎える明治神宮に宿る、百年、一年、一日、一刻という四つの時間軸をとおり、明治神宮の歴史や杜の深奥さ、および神道美術とその背景にあるわが国の長い宮廷文化の精神を伝えることを目的としている。

これらの時間軸は、過去から現在そして未来へと継続される明治神宮の歴史を支える神職をはじめとした多くの職員の奉仕によって維持されている。奉仕することの意味やその姿、所作に宿る「折り目正しさ」と言うべき日本人が本来持つ美しい姿を、実際に使用された装束や祭具等の機能の紹介と、それら形の美しさの展示をとおりして理解していただくこ



メインロビー

と考えているのである。そして、この「折り目正しさ」は、実はわが国における長い宮廷文化の歴史の精神として現在に伝えられてきていることも感じていただきたい。

近代日本誕生の記念碑として

しかし、明治神宮ミュージアムでは、そういった収蔵作品の、従来紹介してきた歴史的意義に加えて、美しさを伝えようと思う。すなわち、収蔵作品というさまざまな造形されたものが本来的に有する美しさに注目したいのである。とりわけ、それらの細部を見ると、精緻で美しいことに圧倒される。美しさは作品の細部に宿っていることが納得されるのである。

そして、その美しさは明治天皇・昭憲皇太后そして明治神宮を思う気持ちに起因する作り手の精緻な技によってもたらされていると考えることができる。しかも精緻な技は、「折り目正しさ」という日本人の美学によって成り立っているとも考えられるのである。

かつて宝物殿で展示した御物および両御祭神ゆかりの品々の展示を「宝物展示室」で、文化館宝物展示室でおこなった企画展示をミュージアムの「企画展示室」でおこなっているのである。



杜の展示室（1階）

「宝物展示室」、「企画展示室」（二階）

これまで、明治神宮では宝物殿と宝物展示室とで収蔵作品の展示をおこなってきた。

宝物殿では、明治天皇が実際に御乗車された「六頭曳儀装車」や、執務の際に御使用になられた「御常用御机」あるいは、日本政府の招きにより大蔵省紙幣寮に採用されたイタリア人エドアルド・キヨッソーネ（一八三二―一八九八）の描いた明治天皇、昭憲皇太后の御尊影など御物をはじめとした両御祭神ゆかりの品々を常設展示してきた。また宝物展示室では、さまざまな企画展示をおこなってきた。そこでは、主に収蔵作品の持つ歴史的側面をとおりして明治という時代を理解することに努めてきた。



宝物展示室。明治22年の憲法発布式当日に明治天皇が御乗車された「六頭曳儀装車」

筆者略歴

一九五四年福岡県生まれ。九州大学文学部卒業。出光美術館学芸員を経て現職。博士（文学）。日本近世絵画史が専門。主な著書に、『狩野光信の時代』（中央公論美術出版）『もつと知りたい長谷川等伯』（東京美術）『思いがけない日本美術史』（祥伝社新書）などがある。

横山大観記念館からの便り

巨匠・大観先生と平山郁夫先生をめぐるちよつといい話

かたや日本画壇の巨匠。
こなた将来を嘱望される新進の画家。
挨拶の席での心あたたまる会話の中味は……。

平山郁夫先生、 前田青邨先生に二度尻をつねられる

平山郁夫先生（一九三〇～二〇〇九）が亡くなられて、はや十年の歳月が過ぎ去った。
平山先生とは、海外はインドのタゴール国際大学等調査に随行させていただいたり、飲み、そしてカラオケに誘っていただいたり、正に公私に亘りご指導いただいた。
今もお電話いただき、お誘いがあるような気がしてならない。
いつであったか、不忍の池畔にある横山大観記念館（旧大観邸）にお立ち寄りになり、よもやま話から、ふと平山先生は思い出され、
「そうそう前田青邨先生（二八八五～一九七七）に尻を二度つねられてね。前田先生が藝大（東京藝術大学）の教授の時でした。戦後間もない頃でしたよ。大観先生の疎開先であった伊豆山の家（熱海市）をお訪ねしたんです。その時ですよ。前田先生に二度も尻をつね



横山大観 (1868～1958)

られたんですよ」と笑いながら話をつづけられた。
「大観先生は、大変喜んでくださって、いつもながら酔心（広島県三原市）のお酒を出して歓待してくださったんです。大観先生は僕に『駆けつけ三杯』と言われ、どんどん盆にお酒を注いでくださり、次々と飲みほし、それを前田先生は横目でご覧になって、『調

大観先生は英語の達人……？

平山先生の大観先生回想録の話はつづきました。

「そしてね、僕はびつくりしたんですよ。歓談している部屋の机の下に、何故か、英字新聞やアメリカの雑誌が置かれているんですよ。しばらく話をしているうちに、大観先生が『アメリカの新聞、雑誌を読んでいるたら痛（だん）のことが出てましてね、身体（からだ）のいろいろな所に痛はできるのですね、知りませんでしたよ』と言われ、僕はびつくりして、明治元年生まれの大観先生は英語ができるんだ。だから国内外のことに精通されているのだ。と、感心したんですよ」

ここまで来ると、平山先生のお話は熱を帯びてきま

した。
「話がはずみ予定していた時間が過ぎたので前田先生が『これから学生たちとの会合がありますので失礼します』と、告げられると、大観先生は『ちよつと待っていてください』と言われ、奥に入られしばらくすると、『少しですが費用にあててください』と封筒を差し出されたので、僕は受け取ろうとすると、前田先生の目は『受け取るな！』とのサイン。と、同時にまたもや二度目の尻をつねられてしまいました。
前田先生は『費用は充分に準備いたしておりますの

平山先生への追慕

「横山さん、赤ラベルじゃなくて黒ラベルだよ。戦後のあの時代は赤ラベルだって手に入らないのに、黒ラベルですよ。大観先生の優しい心づかいに、感銘を受けましたよ」

さて、ジョニーウォーカーにまつわる話のつづきです。
「黒ラベルを持って学校に戻ったら先輩の先生方から、『お前たちには、十年早い！』と言われ、我々助手や学生たちの口には一滴も入らず飲まれてしまったんですよ……』と平山先生は笑いながら話された。

平山先生にお目にかかるのと、いつも美校時代の話。シルクロードの取材旅行の話等々、なつかしむように話しておられた。

先生は、効率性を追求するあまり、文化・芸術が衰退してしまうことを危惧されていた。

国や地方行政で、財政難等により文化・芸術において採算性、効率性等を追求すれば、文化・芸術の創造性及び、伝統文化は消えて行く。大変むずかしいことではあるが、長期的な計画をもって、伝統文化を守り、優れた文化を創造していかなければ、国の貴重な文化は消えて行くだろう。

平山先生こそ真の文化人であり、真の国際人である。私は、今もって先生のお言葉、そして笑顔が忘れられない。
心よりご冥福をお祈りいたします。



公益財団法人
横山大観記念館 代表理事
横山 隆
(よこやま・たかし)



客間「鉦鼓洞」



記念館入口



鉦鼓洞からの眺め



鉦鼓洞からの眺め



1階展示室

ヴィオラに魅せられて

ヴァイオリン族を構成する楽器のひとつ
ヴィオラは複雑な顔をもっている。
その魅力を日本を代表する奏者のひとり
である筆者に尋ねる。

弦楽器ヴィオラについて

ヴィオラは、ヴァイオリンによく似た弦楽器でオーケストラや合奏では舞台の右側に配置される。今上天皇が演奏なさる楽器、と言ったらピンとくる方も多いかもしれない。

ヴィオラはヴァイオリンと同じく十六世紀初め頃に北イタリアで中音域の弦楽器としてほぼ現在の形となった。もともとはいろいろな擦弦楽器（弓で弦を弾いて音を出す楽器）を指す総称であった。ヴィオラ・ダ・ガンバが「脚で支えるヴィオラ」、ヴィオラ・ダ・ブラッチオは「腕のヴィオラ」である。フランス語では「アルトAto」と呼ばれるが、ヴァイオリン族の中で中音域を担当する楽器だからだ。ドイツ語では「ブラッチェ



大きさの比較。左は筆者が使用しているヴィオラ(41cm)、右はヴァイオリン

使われることの多い楽器だったが、ハイドンによって発展した弦楽四重奏で欠かせない存在となった。高音域のヴァイオリンと低音域のチェロを繋いでミックスさせ支える役割は重要で、主に中音域を担当して第二ヴァイオリンと共に内声を充実させる。縁の下の力持ち、目立たないがなくてはならない存在である。

モーツァルトはヴィオラをたいへん好み自身も演奏したが、二十三曲の弦楽四重奏曲のほかにヴィオラをもう一本加えた弦楽五重奏曲を六曲残している。また、有名なK.V.364のヴァイオリンとヴィオラのための協奏交響曲では、ヴィオラの調弦を半音上げて張力を増し音を通して工夫されている。私もこの調弦で何度も演奏したが、音に張りが出て明るくなり、モーツァルトがヴィオラという楽器を熟知していたことがうかがえる。ほかにもヴァイオリンとヴィオラのための二重奏曲が二曲あり、ヴィオラ奏者にとってこれら三曲は宝物のような作品となっている。

ベートーヴェンもヴィオラを演奏したことは知られているが、有名な交響曲第五番「運命」第二楽章冒頭の主題を、チェロと重ねて独特の音色を生み出している。終楽章冒頭もヴィオラだけが最低音ドの音を伴って※刻みだし音楽にエネルギーと推進力を与えて存在感を示している。是非耳をそば立てて聴いて頂きたい。

十九世紀に入り、ブルックナーの交響曲第四番「ロマンティック」第二章やベルリオーズ「ローマの謝肉祭」でのヴィオラパートのメロディはヴィオラの音色を遺憾なく発揮したものだ。マーラーの交響曲第一番の第四楽章終盤で静寂を破り咆えるヴィオラのモティーフには驚く。ベルリオーズの「イタリアのハロルド」やR・シュトラウスの「ドンキホーテ」のように独奏楽器としてヴィ



1980年、イギリス・マン島における第1回ターティス国際ヴィオラコンクールに参加。左から筆者、澤和樹学長、夢沼恵美子さん

オラが活躍する作品は、数こそ少ないが音色やキャラクターを活かした秀作である。室内楽曲においてヴィオラはその魅力を最大限に発揮する。ブラームスの弦楽四重奏曲作品六十七の第三章や弦楽六重奏曲作品十八の第二章における冒頭のメロディはま

Bratsche（腕）である。

胴体に四本の弦を張り、ヴァイオリンの一番高い弦を除いて一番下に低い弦を張った、ヴァイオリンより五度低い音がでる弦楽器、チェロの一オクターブ上の音域である。

胴体の長さはヴァイオリンが約三十五・五センチメートル、チェロがヴァイオリンの二倍の約七十一センチメートルで音響学的にサイズがほぼ決まっている。ヴィオラは音域から考えると本来五十センチメートルほどの長さが必要なのだが、それでは腕で支えて演奏ができないため、さまざまなサイズや形が工夫された。また、バロック時代にはアルトの音域を演奏するのに適したやや小型のヴィオラ（アルト）とテノールの音域を演奏するのに適した大型のヴィオラ（テナー）があった。大型のテナー・ヴィオラは演奏上の問題からのに小型のヴィオラに改造（カットダウン）された。このような訳でヴィオラの胴体のサイズは約三十九〜四十六センチメートルとまちまちである。

イタリア・クレモナのアマティ、ゲアルネリと並ぶ三巨頭のひとりアントニオ・ストラディバリウス（一六四四〜一七三七）も数は少ないが三十挺ほどヴィオラを制作したと伝えられ、現在残っているものは十二挺とされる。ちなみにヴァイオリンは五二〇挺現存しているそうだからヴィオラの希少価値は高く、二〇一四年に行われた世界最大のオークションでは一七一九年制作のヴィオラに四十六億円という値が付いたそうだ（落札されなかった）。

さにヴィオラならではのものだ。ヴィオラをよく演奏したドヴォルザークの弦楽四重奏曲「アメリカ」第一楽章冒頭もヴィオラらしい音を聴くことができる。ドビュッシーは晩年に「フルート、ヴィオラ、ハープのためのソナタ」を作曲したが、それぞれの楽器が織り成す緩が美しい佳作。

時代が進むにつれて楽器や弦がより鳴るように改良されたこともあって、二十世紀に入ると、イギリスのライオネル・ターティスやウイリアム・プリムローズ、作曲家でもあったドイツのパウル・ヒンデミットといった独奏者が現れて活躍した。そのことで作曲家たちはヴィオラに関心を持つようになりヴィオラ作品が増えていった。W・ウオルトンやB・バルトークの協奏曲がそうであり、ヒンデミットは九曲ものヴィオラ曲を作った。

ヴィオラの独奏曲は数こそ少ないが、ブラームスやシューマン、ショスタコーヴィチ、バルトークなど偉大な作曲家たちが晩年にヴィオラ作品を遺している事実は興味深い。

この楽器の持つ内面的な音色が人生を歩んできた彼らの心情を表現するのに最適だったからかもしれない。ヴィオラはそういう楽器だ。

ヴィオラと私

現在、私は主にアンサンブルの分野で活動し、東京藝術大学やいくつかの大学でヴィオラや室内楽をお教えしている。

私が初めてヴィオラに触れたのは十五歳の春、五歳からヴァイオリンを弾いていたが東京藝術大学音楽学部付属音楽高等学校入学の際に先生方の勧めでヴァイオリンからヴィオラ

に転向した。ヴァイオリンでは美しい高い音を奏でることが不器用で、低い弦を朗々と鳴らすことが得意だった私は、先生方のお見通し通りあつという間にヴィオラの音色に魅了された。高校に入学すると直ぐに先輩たちから弦楽四重奏やピアノ五重奏に誘われ、まだヴィオラと



カルテット・プラチナム。左から沼田園子、野口千代光、筆者、菊地知也の皆さん



東京藝術大学
音楽学部講師
大野 かおる
(おおの・かおる)

現在の弦楽器製作者たちはおおむね四十一センチメートルを基準にストラディバリウスなどを手本に制作しているそうだ。

弓はヴァイオリンと同じ形だが五ミリメートルほど短く、ほんの少し太く、五〜十グラムほど重い。楽譜はハ音記号とト音記号の両方を使う。

ヴァイオリンが赤ちゃんを抱くように身体にすっぽりとなじむのに比べ、ヴィオラは幼児を抱きかかえるように少し覚悟しなければならない。弦を押さえる左手の技術はヴァイオリンと大差ないのだが、音を紡ぎ出す右手の技術はだいぶ異なり、これを手に入れるのはなかなか難しい。

作品におけるヴィオラ

ヴィオラの音色はヴァイオリンのように煌びやかな輝きやチェロのような豪快さはない。オーケストラや合奏の中からヴィオラの音を聞き分けるとは難しいかもしれない。しかしようど人が歌える音域なのでまさに人の声のように暖かく、深見のある美しさはいぶし銀のようだ。ヴィオラは十八世紀中ごろまではオーケストラや合奏の中で



ト音記号とハ音記号

いう楽器にもハ音記号の楽譜にも慣れていない私はただだ目を丸くしながら必死で練習した。人と合わせることにアンサンブルの楽しさを知り、以後現在に至るまで私を虜にしている。藝大入学後もヴァイオリニストで東京藝術大学学長の澤和樹氏がコンサートマスターを務め、ヴィオラの川崎和憲氏（元NHK交響楽団首席奏者、東京藝大教授、波木井賢氏（ロイヤル・コンセルトヘボ管弦楽団首席奏者）など卒業後に目覚ましい活躍を遂げるメンバーが集まった「弦楽合奏団ラーチェロ」での切磋琢磨の日々はヴィオラ奏者である私の音楽人生に大きな影響を与えた。

また一九八〇年に前出のライオネル・ターティスを記念してイギリス・マン島で始まった第一回ターティス国際ヴィオラコンクールに参加し、ここでスメタナ・カルテット（四十年に渡り暗譜で弦楽四重奏を演奏し続けたチェコスロバキアの至宝）のミラン・シュカンパ先生に出会ったことも私のヴィオラ人生に大きな影響を与えた。現代は世界中でI・Tが急速に発達しA・Iが人間に代わるような時代であるが、それらに警鐘を鳴らすかのごとく先の見えない新型コロナウイルスのパンデミックの真ただ中にいる。人類の宝である音楽芸術の力を信じ、世界遺産のような作品を、私はヴィオラ奏者として、また教師として後輩たちに伝え、内側から音楽を支え穏やかな音色で奏で続けたいと思っている。

筆者略歴

茅ヶ崎市出身。東京藝術大学大学院修士課程修了。大学院入学と同時に師浅妻文樹氏率いる東京アカデミー・アンサンブルのメンバーとなる。一九八〇年第一回ターティス国際ヴィオラ・コンクールで二つの特別賞受賞。民音コンクール（現東京国際音楽コンクール）「室内楽」では第一位、および二つの特別賞受賞。一九八三年に東京文化会館小ホールでデビューリサイタルを開催。一九八六年金昌国氏が主宰するアンサンブルオフ・ウキョウ創設に参画。現在に至るまで中心的なメンバーとして活動する。内外の著名な演奏家との共演も数多く、ドイツ、フランス、イタリア、アメリカ、台湾、韓国などで演奏。一九九七年から十年間、広島でリサイタル・シリーズを開催した。弦楽四重奏にも意欲的に取り組み、現在はカルテット・プラチナムのメンバーとしても活動。

後進の育成にも力を注ぎ、東京藝術大学、東京音楽大学、洗足学園音楽大学講師、大阪芸術大学大学院客員教授。

日中韓文化交流 フォーラムをふりかえる

新型コロナウイルス感染症は、
政治、経済、文化・芸術等々、あらゆる
分野に「負」の傷を残しました。
日中韓文化交流フォーラムも例外ではなく……。

財団専務理事 **小宮 浩**
(こみや・ひろし)

新型コロナウイルス感染症
パンデミックの中で

例年、この新春号において、日中韓文化交流フォーラムの報告を掲載することが恒例となっておりますが、今回は新型コロナウイルス感染症のため、断念せざるをえませんでした。

日中韓の三カ国の関係において、政治情勢が極めて厳しい状況下にあっても、中断することなくフォーラムを続けることができたことを各国関係者は互いに誇りとしてきました。

誠に残念なことです。第十六回にあたる昨年は韓国がホスト国でした。韓国の皆さまの無念さは、察して余りあるものがあります。病魔の猛威には、敵いませんでしたが、三カ国の友情の証でもある文化フォーラムが、これをもって終了したわけではありません。捲土重来を期し、それほど時を待たずにウィズコロナの時代にふさわしい形で、フォーラムの再開を願う次第です。

日中韓文化交流フォーラムの創設

当財団の理事長でもあった平山郁夫先生は、ユネスコ親善大使を務めておられ、常々「文化で国際貢献をしよう」と精神的に主張され、行動されていました。そうした姿勢が具現化したものの一つが、フォーラムの創設です。

発足時の財団のスタッフの意気込みを



第1回・日中韓文化交流フォーラムにおける各国代表。前列右より平山郁夫（日本）、金容雲（韓国）、劉徳有（中国）の各氏。ソウルにて

当時の「絲綢之路」は次のように記しています。

「日本、中国、韓国の東アジアの三カ国は、歴史的には『漢字文化』を分母としてシルクロードを通じた文化を受容しながら発展してきたが、この百年の中で戦争や植民地支配といった不幸な時期を体験した。近年では三カ国の経済関係は大変緊密になり、貿易関係は飛躍的に拡大しているが、政治の分野ではギクシャクした関係が未だ続き、相互の不信感は拭いきれていない。一方、文化には相互理解を促進させる力がある。文化交流を二国間から三カ国間に発展させて交流を盛んにしてゆけば相互理解が一層深まっていく……」

このような主旨の呼びかけに、中・韓両国も応じ、二〇〇五年十二月六日にソウルで「第一回日中韓文化交流フォーラム」が開催されました。この時の中国代表は、中国対外文化交流協会常務副会長の劉徳有氏。氏は毛沢東や周恩來の日本語通訳を勤め、翻訳家としても著名な学者です。韓国は数学者で韓日文化交流会議委員長の方容雲氏でした。両氏とも日本語が堪能な知家で、日本代表の平山先生とは旧知の中でもあり、フォーラムは順調なすべり出しでスタートしました。

回を重ねて……

フォーラムは三カ国の持ち回りで、中日の順で進行了しました。一昨年で丁度五回りましたが、改めて三カ国のどこで開催されたのか、列挙してみましょう。



第9回・「わたしは未来」を熱唱する代表団の方々。前列左より鄭求宗、小倉和夫、劉徳有、宮田亮平の各氏。佐渡市にて



第11回・「わたしは未来」を3カ国語で歌ってくださったホヨン・エンジェルス合唱団の皆さん。以後、この歌は事実上の会歌となった。釜山にて



第12回・平山郁夫先生の墓へ墓参。広島県生口島の法然寺にて



第15回・「音楽 —— アジアをつなぐ弦の響き」というテーマで東京藝術大学を中心に展開。フォーラム会場における代表団。東京ドームホテルにて



第8回・日中関係が厳しい状況にあった。無錫市人民政府主催による歓迎宴の様様

第一回は前記のとおりソウルです。以後、北京、東京、済州島、揚州、奈良、慶州、無錫、新潟、釜山、温州、広島、江陵、貴陽、東京という順でフォーラムは開催されました。

この間、第三回の東京から第十五回の東京に至るまで国際交流基金からは、よきパートナーとして人的な面でも資金的な面でも多大なご協力を賜りました。ここに改めて感謝の意を表わさせていただきます。

私は、このフォーラムには第七回の慶州から参加しました。この年、二〇一一年はご存知のように「東日本大震災」が起きた年です。そうした事情を考慮して、ホスト国の韓国から「東アジアにおける文化交流を推進するための方策」災害と文化の関わり、及び市民主導の文化交流の役割」というテーマが提案され、討議

の中心は災害であったことが強く印象に残っています。

日中韓文化交流フォーラムは、三カ国間の熱い友情のもと、和氣藹々の雰囲気全てが進められていましたが、二〇一二年の中国・無錫市で開かれた第八回のフォーラムは、一時は開催見送りが、と危惧されたものでした。と、いうのもこの年は、日中国交正常化四十周年、中韓国交正常化二十周年にあたり、節目の年を記念して本来ならば大いに盛り上がるフォーラムになるはずだったのですが、様々な政治的な問題からみ、日中間の予定されていた行事の多くが中止になっていたのです。

フォーラム自体は何事もなく無事に終了しましたが、中国側のある先生が、私に「先生、ここまでたどり着いた私共の苦勞を察してくださいよ」と、少々お酒の力を借りて言われたことを今もよく覚えております。

新潟と広島で

平山郁夫理事長の後を継いだ宮田亮平理事長（現・文化庁長官）は、日中韓の人々が共に歌える歌を創りませんか、と提案しておりましたが、それが作家の夢枕獏さんと作曲家の松下功教授のお力

で実現。

「わたしは未来」というこの歌は、二〇一三年の第九回フォーラムが開かれた新潟県佐渡市で、相川小学校の六年生の生徒さんたちによって披露されました。東京藝術大学で学んでいた中韓両国の留学生の皆さんのお力で、歌詞も中国語、韓国語も用意することができ、佐渡の地に初めて三カ国語がきれいなハーモニーで流れた次第です。

「わたしは未来」は、今ではフォーラムのテーマソングです。毎回、様々な形式で披露されることは、夢枕獏さんにとっても、松下先生にとっても作家冥利、作曲家冥利に尽きるのでは……と感じ入りました。

そして五年後、第十四回のフォーラムは、中国の貴州省の省都・貴陽市で九月十四日から十八日までの日程で開かれた

のですが、十六日の夕刻、東京から計報が入りました。松下功先生がオーケストラのリハーサル場で倒られ、不帰の客となられたというのです。

松下先生の死は、フォーラムの中で起きた唯一の悲しい出来事だったと言えます。

もう一つ特筆すべきフォーラムは、二〇一六年に広島で開催したフォーラムで、中韓の代表団の方々をフォーラムの生みの親である平山先生の生誕の地、生口島へご案内できたことです。そして、先生が眠る法然寺を訪問し、墓参でできたことを代表団の先生方は皆喜んでおられたことが心に強く残っております。中でも韓国代表団のひとりの先生は五体投地で拝礼されたのには、正直驚きました。

フォーラムも回を重ねることに洗練されてきているように思えます。テーマも

当初のある種の堅苦しさから脱皮し、食、絵画、音楽などを取り上げ、会議の論調も柔軟性を伴ってきています。

フォーラムについては、また機会をみて別の視点からご報告したいと思えます。現在、日本におけるフォーラムの開催は、財団単独で運営しております。これは人的な面でも資金的な面でも極めて大きな負担であることは、事実です。この課題を解決しない限りは、壁に遅かれ早かれ突きあたってしまうと思います。そうならないための努力は続けたいと思います。

最後になりましたが、新型コロナウイルス禍を乗り越え、フォーラムが再開される日が早いことを祈る次第です。また、これまで物心両面でお力を賜りました個人、法人の各位に心より感謝申し上げます。

事務局報告

令和二年度助成事業の採択状況について

令和二年度助成事業の申請、採択状況について次のとおり報告します。

■文化財保存修復助成事業

二十七都府県の教育委員会等から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

	申請数	採択数	決定金額
美術工芸	九	五	百五十万円
建造物	三十一	十八	六百七十万円
有形民俗	四	一	三十万円
その他	三	二	六十万円
計	四十七	二十六	九百十万円



修復された「高野神社本殿」
(岡山県津山市)



修復された「木造阿弥陀如来坐像」
(福井県坂井市)

■芸術研究等助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
二十六	八	三百二十五万円

■国際協力助成事業

研究者からの申請に基づき、審査の上、

次のとおり助成を決定しました。

申請数	採択数	決定金額
四	四	三百三十万円

■重点助成事業

(1)熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業
教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

美術工芸	採択数	決定金額
一	一	四十万円

(2)昭憲皇太后大礼服研究修復復元支援事業
大聖寺門跡所蔵の昭憲皇太后大礼服は、貴重な歴史資料であり近代日本の象徴的遺産として文化的価値が高い。経年劣化著しい大礼服の修復、欠失している部分（スカート）の復元のため、令和元年度から令和四年度まで募金を行い昭憲皇太后大礼服の研究・修復・復元事業を実施しています。



昭憲皇太后大礼服（修復中）

令和二年度は四年計画の二年目です。

(3)サーナート（インド）野生司香雪仏伝壁画保全支援事業

日本画家・野生司香雪は、約八十年前にインドの聖地サーナートの初転法輪寺で仏伝壁画を完成させました。今では我が国在外の稀有な近代芸術の文化財です。

その仏伝壁画は、経年劣化が進み剥落が激しく保全措置が必要となり、令和元年度から令和三年度まで募金を行い、仏伝壁画の保全事業を実施しています。

令和二年度は三年計画の二年目です。

(4)尼門跡寺院文化財保存修復助成事業

本事業は、平成十二年度から企業等のご支援を受けて毎年一件の助成を実施しているものです。

令和二年度は、「真如寺蔵・無外如大禅尼像他研究修復出版プロジェクト」を立ち上げ、令和二年度から令和五年度まで企業・一般等から募金を行い実施していきます。

(5)その他（東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業）

教育委員会から推薦があり、審査の上、次のとおり助成を決定しました。

建造物	採択数	決定金額
一	一	百五十万円

ご寄付を頂きました皆様

◎令和二年十月十六日から十二月三十一日まで
敬称略 順不同

☆寄付金
○文化財保存修復・芸術研究等助成事業に対する寄付
ヤフーネット募金（83名様）

○熊本地震被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付

○サーナート（インド）野生司香雪の仏伝壁画保全支援事業に対する寄付
彩雲堂本舗
法永寺

圓福寺 円福寺参禅会

○尼門跡寺院文化財保存修復助成事業に対する寄付
中世日本研究財団

○東日本大震災被災文化財救援・復旧支援事業に対する寄付

お願い

◎熊本地震被災文化財の救援と復旧のための募金をお願いします

平成二十八年四月に熊本県を中心に発生した熊本地震により被災した文化財の保全に向けて、募金活動を行っております。

いただきました浄財は、熊本地震被災文化財レスキュー事業等、被災地域の文化財等の救援のために活用（平成二十八年度助成実施させていたたくともに、文化庁・熊本県と協議の上、被災文化財の修復・保存のために活用させていただいております。しかしながら修復・保存する物件も多く、まだまだ財源が不足しています。引き続き皆様の温かいご支援、ご協力をお願い申し上げます。募金のお振込み手続きは左記の銀行振込又は郵便振替によりお願い申し上げます。

*

銀行振込（①銀行名②口座番号③名義）

①三井住友銀行 上野支店

②普通 8399622

③（公財）文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、領収書、お礼状の発行等の必要上、財団事務局に事前にご連絡をいただける

と幸いです。

（電話：〇三・五六八五・二三二一）

郵便振替（①振替番号②加入者名）

①00160・5・12319

②（公財）文化財保護・芸術研究助成財団
※通信欄に「熊本地震」とお書き下さい。

◎賛助会員ご入会並びにご寄付（前記のご寄付を除く）のお願い

〈賛助会員〉

当財団では、財団の活動趣旨にご理解、ご賛同いただき、恒常的にご支援いただける法人、個人の賛助会員を募集しています。

法人正会員 年額（1口） 50万円

個人正会員 年額（1口） 1万円

維持会員 年額（1口） 10万円

〈ご寄付〉

賛助会員の他に、ご寄付も随時受け付けております。ご寄付の方法は様々な方法がありますので、左記のとおりご紹介いたします。詳細は当財団事務局までお問い合わせ下さい。

（電話：〇三・五六八五・二三二一）

(1)銀行振込又は郵便振替

銀行振込や郵便振替でもご寄付を受け付けております。

〈銀行振込〉

○三井住友銀行 上野支店

普通 6615500

○みずほ銀行 上野支店

普通 4478576

○三菱UFJ銀行 上野中央支店

普通 0796384

〈郵便振替〉

00160・5・12319

※口座名義は、銀行、郵便局、いずれも

（公財）文化財保護・芸術研究助成財団
※銀行振込の場合、振込者の確認が難しいため、財団事務局に事前にご連絡をいただける幸いです。

●税法上の優遇措置

当財団は、「公益財団法人」としての認定を受けておりますので、賛助会費・寄付金（募金）には税法上の優遇措置が適用され、所得税、法人税等の控除が受けられます。詳しくは当財団ホームページでご確認いただくか事務局までお問い合わせ下さい。

☆財団案内及び賛助会員入会申込書のご請求、その他ご質問等お問い合わせは財団事務局までご連絡をお願いいたします。

お知らせ

(1)令和三年度助成金の申請に関するお知らせ

令和三年度助成事業にかかる助成金申請について、左記のとおり受け付けを行っております。詳細は、当財団ホームページ（助成金のご案内欄）でご確認下さい。

例年実施の文化財保護、芸術研究に係る助成事業（申請期間）

令和三年一月十日～二月末日（必着）

(2)新理事長CDプレゼント

新理事長 澤和樹が就任したことを記念して、新規に賛助会員に入会された方、及び三万円以上ご寄付を頂いた方に澤和樹のCD「ヴァイオリンでうたう日本のこころ」をプレゼントします。

この機会に賛助会員ご入会、ご寄付をおまちしております。

なお、既に賛助会員になられている方には令和三年度会費納入時にお届けします。

今号の表紙

平山郁夫 神楽舞春 下鴨神社 京都 二〇〇八年

平山画伯、最晩年の作品である。下鴨神社は、正式には賀茂御祖神社という。祭神

は、ここに描かれている

東殿に祀られる玉依姫命

と西殿に祀られている

賀茂建角身命である。二

つの本殿は国宝に指定されている。

京都三大祭の一つで



神楽舞春

ある葵祭（賀茂祭）は、下鴨神社と上賀茂神社が催す祭。

一九九四年に下鴨神社はユネスコ世界遺産とされた。本作品は、神社の依頼により描かれたものだが、ユネスコ親善大使の誇りをもって、画伯は鮮やかに描ききっている。

編集後記

昨年は新型コロナウイルスに始まり、そして終えた一年でした。しかし、終息には至らず、その脅威は今も続いています。

財団の運営にも新型コロナウイルスは黒い影を深く落としています。

この危機をどう乗り越えるかが、私たちに課せられた喫緊の問題です。様々な課題が山積した新年を迎えてしまいましたが、見えない敵を相手になんとか生き残る覚悟です。どうぞ皆さま、本年もよろしくお願ひ申し上げます。

広報誌「絲綢之路」(シルクロード)

二〇二一年 新春号 通巻第九十五号

★令和三年一月二十八日発行

★編集発行／公益財団法人文化財保護・

芸術研究助成財団 事務局◎

〒110-0007 東京都台東区上野公園十二十五

電話（〇三）五六八五―二三二一

FAX（〇三）五六八五―五二二五

URL: http://www.bunkazai.or.jp/

E-mail: jimukyoku@bunkazai.or.jp

★印刷 篠田印刷株式会社